

天文三河動乱
〜祖父清康・父広忠の時代〜



1 源空院 (西浅井町)
松平清康(徳川家康の祖父)の弟・康孝が1523年に菩提寺として創建した浄土宗寺院です。シダレザクラの名所として知られ、墓地に康孝の墓があります。康孝は源空院の約400m南東にあった浅井西城(市史跡「土家屋敷跡土壘」)の城主でした。



2 室城跡 (室町)
松平清康が家臣に暗殺されると、嫡男の広忠(家康の父)が一族によって岡崎城を建てます。広忠は東家城主の東家吉良持広の保護を受け、持広の一字を授けて広忠と名乗り、東家吉良氏の重臣・富永氏の居城だった室城に一時かくまわれました。この保護がなければ、家康は生まれていなかったかもしれません。



3 松平清康 仮葬地 (長縄町)
江戸時代の1795年に藪の中から「清康公」と刻まれた五輪塔が発掘されたことから、暗殺された松平清康の遺骸を大河内氏が運び出し、大河内氏ゆかりの長縄でひそかに仮葬したと伝わっています。観音寺本堂裏手の北側に石碑が建てられています。仮葬の真偽は不明です。



4 養寿寺 (下矢田町)
毎年3月の最終土日に行われる祭り「矢田のおかげん」で知られる浄土宗寺院で、徳川家康の大伯母「矢田姫」の墓と伝わる石塔があります。矢田姫については家康の大伯母説のほか、1世代上の「ひい伯母説」、家康と無関係の「二家出身説」があり、確かなことは分かっていません。



5 矢田地蔵塚 (上矢田町)
安城城の戦い(1540年)に駆け付けて戦死した松平康忠の墓と伝わっています。現在は矢田公園内にあり、滑り台が設置されて子どもたちの歓声が響いています。近くにある桂岩寺は、康忠が父を供養するために再興したと、同寺の縁起に記されています。



桶狭間の戦い
〜その時 西尾は〜



6 実相寺 (上町)
足利(吉良)満氏が1271年に創建した吉良氏の菩提寺です。その開山の聖一園師(円爾)は、禅文化としてこの地に茶をもたらしといわれており、釈迦堂など多数の文化財を所蔵しています。1560年前後に織田方の兵火で焼失したと伝わります。



7 大槓律寺 (伊藤町)
1560年織田信長は、桶狭間の戦いで今川義元を打ち破りました。その後、織田勢が西尾にも侵襲し実相寺を焼失させたといわれます。その時、実相寺の観音堂のみは焼け残り、この観音堂が後に大槓律寺となったといわれています。



8 今川氏発祥の地 (今川町)
吉良・今川の祖 足利長氏は、吉良荘を譲り受けました。吉良荘内の今川の地は、長氏の次男国氏に譲られ、この地名から今川を名乗ることになります。桶狭間の戦いで今川義元が討ち死すると、今川の支配下から離れた家康が、三河統一を進めていきます。



9 妙喜寺・江原城跡 (江原町)
桶狭間の戦いの際、今川氏に従軍し討ち死にしたとされる江原丹羽守政秀(忠次)と、その代々の墓があるといわれる曹洞宗の寺です。1469〜1587年頃、小笠原氏が江原に住んで江原姓を名乗ったとされています。この一族代々の居城がこの江原城とされています。



10 東向寺 (駒場町)
1560年5月、桶狭間の戦いで討ち死にした今川義元。その首は須賀口に晒し物にされました。今川方の家臣岡部元信は敵戦後も抵抗を続けましたが、信長に城明け渡す条件に、主君の首との交換を申し出ます。信長はその忠告に応じ条件を受け入れました。義元の首は、その当時の今川一家一族が住職を務めていたこの寺に埋葬されたと伝わります。



11 願成寺 (巨海町)
吉良長氏創建の寺とされています。桶狭間の合戦前後に織田勢によって上町の実相寺と同時期に焼かれたと伝わります。釈迦如来坐像が本尊として祀られています。この地域まで織田勢の影響があったとすれば、いかに西尾が当時の勢力緩衝地帯にあったかを物語ることとなります。

三河統一戦のはじまり
〜松平元康の西尾平定〜



12 鑑ヶ淵古戦場 (吉良町岡山)
桶狭間の戦いの後、松平元康(徳川家康)は今川氏と決別し吉良氏と戦端を開きます。東家城主吉良義昭は深澤松平氏の中島城(岡崎市)を攻撃し失敗します。退却する吉良勢は敵を須美川下流の鑑が淵に誘い込み逆打撃を与えます。退却する松平勢は善道で大将松平好景や多くの武将を失い敗走します。(異説あり)



13 西尾城跡 (錦城町)
1561年5月、元康は吉良方の八ツ面城主荒川義弘を逐逐らせ、妹市姫を嫁がせました。義弘と元康家臣酒井政家(正親)は今川方の西尾城を攻め取ります。城主牧野成定は善戦しますが折しきれず本拠地牛久保へ退き、代わって酒井政家が西尾城の城主となり東家城は孤立します。



14 安泰寺 (西幡豆町)
欠城(西幡豆町)城主小笠原重長が1513年に小笠原氏の菩提寺として創建しました。この寺に「家康鑑かげの松」という伝承があります。記録等はなく実際に家康が当地に来たかどうか不明で、寺宝として家康愛蔵品と伝わる椰子実水飲等があり、家康との関わりを否定できません。



15 寺部城跡 (寺部町)
寺部城は三河湾をのぞむ台地上に建つ16世紀の城で水陸交通の要地とされています。元康の三河統一戦開始の頃寺部城主小笠原重重と支城の欠城主広光は吉良氏側でした。吉良氏敗北後、小笠原氏は本多忠勝の仲介により元康の家臣となります。両城は家康の関東移封後廃城となります。



16 走り付け古戦場 (東幡豆町)
この戦いは1561年の藤波礫の戦いのころと推定されます。走り付けは寺部のすぐ東の海岸にあり、松平軍が敗走したのは小笠原軍の鉄砲の音に驚いたからといわれます。走り付けは谷であって銃音が増幅されます。大音響に驚いた火縄銃の数を誤解したか松平勢は退却しました。



17 瀨門神社 (吉良町瀨戸)
創建は不明ですが、源頼朝が東大寺再建時に上洛する折に参拝し、社殿を修理したと伝わります。1561年、松平元康が東家城を攻める時に戦勝祈願をしました。1657年、幕府赤坂陣屋の三河代官鳥山牛之助が再建しました。境内に隣接する西林寺には、南極大陸探検の白瀬島の墓所もあります。



18 藤波礫古戦場 (吉良町瀨戸)
1561年、松平元康は東家城の吉良義昭を攻めるため小笠原に本多広孝、津平善、友国等に松井忠次、糟谷者等に小笠原三九郎長滋を配します。東家城の西、藤波礫で戦いはじまります。東家吉良側の家臣富永伴五郎忠元は、東家城から出て戦うも討ち死にし、吉良義昭は降伏します。



19 東家城跡 (吉良町鞍馬)
古くは承久の乱の後、吉良荘地頭になった足利義氏が当時の矢作川の東に城を構えたのがはじまりで、以後東家吉良氏の居城になったと伝わります。桶狭間の戦いの後、松平元康は東家城の吉良義昭を攻め、東家吉良氏は降伏し、以後松平氏が入りますのちに廃城となります。



20 伴五郎地蔵 (吉良町寺嶋)
松平元康と吉良義昭の戦いで、室城主で東家吉良の家臣富永伴五郎忠元が東家城の西、藤波礫の戦いで戦死します。時に25歳。後世地元の人々が、その地の墳墓が荒れていくのを悲しみ、伴五郎地蔵として祀りました。戦死した富永一族の墓所はその地から西へ300mの大通院にあります。



21 小牧陣屋跡 (吉良町小牧)
1561年、松平元康が東家城を攻めた時の本陣(砦)跡で、本多広孝が守備しました。のちに寺津城主大河内氏の所領になりました。松平(大河内)正親は元久頼とともに家康に仕え、三代元久は1703年上総国大土郡喜福寺にあり、石高2万石のうち約半分は小牧陣屋で支配していました。



22 赤羽根城跡 (一色町赤羽)
赤羽根城は今川氏の勢力下、東家城の吉良義昭配下の高橋氏の守城と伝わります。桶狭間の戦い後、松平元康の家臣、西尾城の酒井政家(正親)に攻められ落城しました。赤羽根城の位置、規模についてははっきりしていませんが、その跡地には瑞雲寺と赤羽別院親宣寺、近年には県立一色高等学校が建てられています。

三河一向一揆の戦い
〜松平家康の試練〜



23 上永良神社 (上永良町)
戦国武将、加藤左馬助嘉明の生誕碑があります。1563年正月元日生まれ、父は三之丞助明。この年の三河一向一揆は一揆側として家康に背き、敗れたのは諸国を流浪。関ヶ原の戦いでは家康に味方し、戦後20万石伊予松山藩主、のちに43万石陸奥会津藩主になっています。



24 真成寺 (八ツ面町)
八ツ面城主荒川甲斐守義弘が1562年に創建したと伝わっています。義弘は家康の異母妹市姫を妻にむかえましたが、三河一向一揆で東家城主吉良義昭が西尾地域の盟主になると、義昭と和し、吉良家再興を願って一揆側として戦いましたが敗れました。



25 無量寿寺 (平坂町)
三河一向一揆では西尾地域の中心的なお寺。本證寺、上宮寺、勝鬘寺の三河三か寺を中心に、本願寺直属の浄妙寺、慈光寺、願照寺、無量寿寺の四か寺を加えた七か寺が、本願寺の血縁者を住職とする本宗寺を支え、一揆側の中心寺院でした。



26 寺津城跡 (寺津町)
現在は瑞松寺の境内になっています。大河内氏の居城で、1504〜1521年に築城されたといわれています。東家城主吉良氏の家臣であり、三河一向一揆では吉良方として参加し、敗れた秀綱が最後の城主でした。江戸時代に、知恵伊豆といわれた松平伊豆守信綱の先祖の地です。



27 不退院 (上道目記町)
八ツ面城主荒川甲斐守義弘と妻の市姫の墓があります。この地域は豊かな米の産地で、戦国時代にたびたび地権争いが起きていました。現在は浄土宗寺院ですが、三河一向一揆では、一揆側として戦ったとの伝承もあります。

一揆側

- 荒川城跡……荒川義弘
- 寺津城跡……大河内秀綱
- 無量寿寺
- 浅井東家城跡……大土士左衛門
- 小島城跡……高部屋鋒之助
- 江原城跡……江原孫三郎
- 矢田砦……矢田次郎
- 高木砦……高木仁右衛門
- 東家城跡……吉良義昭
- 真成寺、嚴西寺、花岳寺
- 上永良神社、不退院

家康側

- 岡山城跡……久留善四郎(初めは一揆側)
- 寺部城跡……小笠原重重
- 欠城跡……小笠原広光
- 西尾城跡……酒井政家(正親)

天下取りへの足跡
〜徳川家康の覇業〜



28 西尾城跡 (錦城町)
1560年の桶狭間の戦いを機に、今川氏の支配から独立した松平元康(徳川家康)が三河統一に乗り出し、61年に西尾城を落とすと、家臣の酒井政家(正親)が入城しました。85年には家康による大改修が行われ、防御設備「丸馬出」などが構築されました。



29 御剣八幡宮 (錦城町)
1600年、会津征討に向かった家康が軍を返して江戸を出発し、石田三成討伐に向かう途次で岡崎に宿泊した際、使者を御剣八幡宮に送り、鹿切と伝わる宝剣のある社殿を、敵の西に向けて祈請させ、その神通力が家康に関ヶ原での勝利をもたらした、との伝承があります。



30 康全寺 (満全町)
御剣八幡宮を取り巻く6つの堂(六坊)のうち2堂を合わせて、室町時代の14世紀末に西家城主・吉良満貞の妻が、吉良山満全寺として復興しました。1579年に家康がこの寺に宿泊し、家康の一字を拝願して西尾山康全寺に改めたと伝わります。現在は曹洞宗寺院です。



31 家康鷹野陣跡 (行用町)
福泉寺(浄土宗西山深草派)の境内に、「三河太守源家康鷹野陣跡」[御遺跡 東照家康公御休息の石壘]などと書かれた石柱があります。寺伝によると、時の住職が「三河守家康に助力したため、近辺に寺額を受けた」とされ、家康がこの地で鷹狩りをした際の本陣を福泉寺に置いたと伝わっています。



32 寺津八幡社 (寺津町)
鎌倉時代初期に創建されました。家康が1608年に本殿を再興し、將軍家の守護神として仰ぎました。32年には応神天皇と共に、家康が祭神として合祀されました。扁額「縣社八幡社」は徳川宗家16代家達の手書です。境内には「大河内氏発祥地」の碑が建てられています。



33 妙喜寺 (東幡豆町)
浄土宗西山深草派の寺院で、「かほちや寺」として親しまれています。小笠原権之丞(ごんのじょう)の母と伝わる「妙喜尼」の位牌があります。権之丞は幡豆小笠原氏の一族とされていますが、実は家康の子だったとある史料もあります。大坂夏の陣で家康と敵対して討ち死にしました。